

日系企業がタイに進出する理由



今回は、日系企業が、タイへ進出する主な理由について、レポートいたします。
主に以下の4点が理由として挙げられます。

*** 外資政策の充実**

BOI（タイ投資委員会）による投資優遇制度の存在が考えられます。BOIが定める投資奨励業種においてBOIからプロジェクト認可された場合、法人税、機械設備や輸出用製品の原材料等の輸入税などの減免措置が受けられます。

※参考 日本貿易振興機構（ジェトロ）HP「タイ 外資に対する奨励」

https://www.jetro.go.jp/world/asia/th/invest_03.html

*** タイ国内マーケットの充実**

タイは、一人当たりのGDPは2011年に5,000米ドルを超え、富裕層のみならず、増加する中間所得層を中心に消費意欲が高まり、国民の生活も豊かになってきています。

2013年には、国民の5人に1人が、自動車を保有（合計約1400万台）するようになりました。また、都市部、地方に限らずスマートフォンやタブレットを所有する方が多く、LINEやフェイスブック、掲示板サイトへの投稿など、SNS全盛の時代を迎えています。一昔前にマスコミを賑わせていた<世界の工場>などのイメージはなく、タイ国内マーケットは様々な商品やサービスを受け入れる土台が出来上がりつつあります。

*** インフラ整備**

国内には、60以上の工業団地が点在し、工場建設のための敷地のほか、道路、変電所、上下水道、廃水処理、通信、洪水防止システムといった、工場稼働に不可欠な施設やインフ

ラが整備されています。また、工業団地の中には、輸出入のための港湾、空港へのアクセスなど工場内のインフラだけでなく、物流の拠点として、立地がいい場所もあり、大変人気があります。また、団地内には、住居、学校、病院、レストラン、郵便局、銀行、ガソリンスタンド、ホテルなどの施設があり、生活環境が充実しています。

* 将来的な視点

ASEAN 域内を一大経済圏として、域内輸入関税の撤廃は段階的に進んでいますが、特に、陸の ASEAN (2.5 億人/タイ、ミャンマー、ラオス、カンボジア、ベトナム) と呼ばれるメコン経済圏の国々が、東西、南部経済回廊を利用した場合、大きなサプライチェーンが完成するだけでなく、マーケットとしての将来性も高くなります。

陸の ASEAN の中心とされるタイは、ASEAN マーケットへの輸出や製造拠点、モノやサービスの販売拠点としても有望な国であることは変わりません。

今回は、タイの進出基礎、会社設立、税務などについて、レポートさせていただきます。

【岡山県タイビジネスサポートデスク】

<<日本国内デスク (株式会社アークビジネスサーチ内) >>

【所在地】: 東京都千代田区神田小川町 1-11-8 大竹ビル 7 階

【担当者】: 志賀 敦 (しが あつし)

<<タイ/バンコク現地デスク (ARK ENTERPRISE CO., LTD. 内) >>

【所在地】: 138 Boonmitr Bldg., 3rd Floor, Rm. A2, Silom Rd., Suriyawong, Bangrak Bangkok, 10500 Thailand

【担当者】: 福田 淳 (ふくだ じゅん)

※「岡山県タイビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のタイでの事業展開を支援しています(岡山県からの委託業務)。ご利用にあたっては、[「岡山県タイビジネスサポートデスク」利用の手引き](#)をご覧ください。また、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#)(086-226-7365)までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のタイでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。